BL･ALIA研究成果合同発表会　プログラム

ALIA

開会挨拶　一般財団法人　ベターリビング　　清水　専務理事	14:00～14:10
＜BL発表テーマ＞ **「わが家の液状化対策　他　について」** 一般財団法人ベターリビング　つくば建築試験研究センター　技術評価部長　佐久間　博文 **「郊外住宅地における持続可能なまちづくりの方向性」** 一般財団法人ベターリビング　サステナブル居住研究センター総括研究役　青木　伊知郎	14:10～14:30 14:30～14:50
＜ALIA発表テーマ＞ **「点検を主とした住宅部品の使用実態等についての基礎調査」** 一般社団法人リビングアメニティ協会　リフォーム･施工部会　部会長　中島　古史郎 **「住宅部品の残存率等推計調査」** 一般社団法人リビングアメニティ協会　消費者･制度部会　部会長　柴崎　和彦	14:50～15:10 15:10～15:30
＜講演＞ **「造られた寿命と積み上げられる寿命」** 滋賀大学　山﨑 古都子　名誉教授	15:40～17:25
閉会挨拶　一般社団法人リビングアメニティ協会　居谷　専務理事	17:25～17:30

BL･ALIA研究成果合同発表会

山﨑先生の プロフィール

1968年　奈良女子大学修士課程家政学研究科住環境学専攻修了
1968年　愛知教育大学助手
1971年　滋賀大学講師
1975年　同助教授
1986年　学術博士
1989年　滋賀大学教授
1998年　都市住宅学会論文賞受賞
2003年　滋賀大学環境総合研究センター長（兼任）
2004年　都市住宅学会論文賞受賞
2009年　滋賀大学名誉教授

著書
脱･住宅短命社会　:サンライズ社
地域に根ざした学校づくりの源流　:文理閣（共著）
住宅の社会的管理に向けて　:都市文化社
住教育―未来の架け橋　:ドメス出版社（共著）
他多数

山崎先生の講演要旨

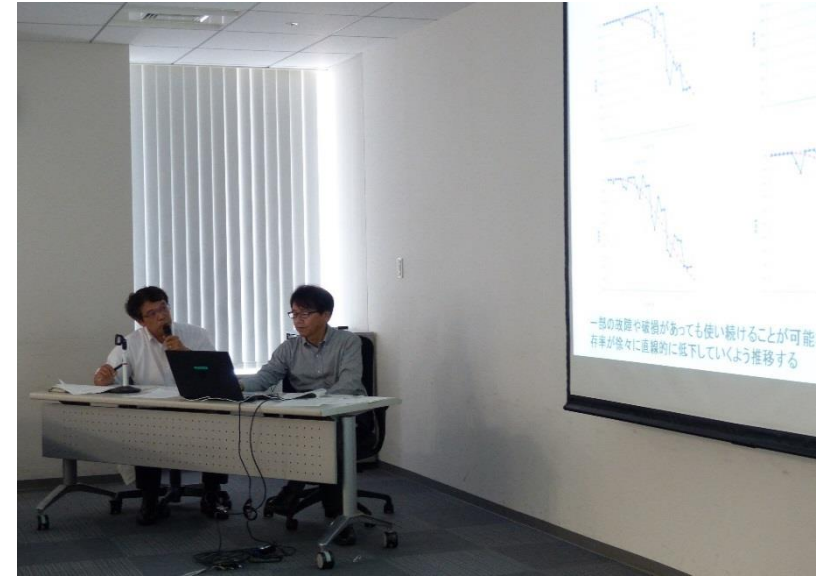
「造られた寿命と積み上げられる寿命」

　日本の住宅の寿命は、27～30年と言われているが、この母集団をご存じだろうか。これは、滅失住宅の竣工から滅失までの期間を平均し、30年以上経ってもなお健在の住宅を含んでいない。一方人間の平均寿命は生まれた人全ての余命を推計した物である。つまり、一般に住宅に使われている寿命の概念と、人間の寿命の概念は真逆の発想に基づく。

　ところが、この数字は一人歩きし、30年経過した住宅は余命がない、つまり早晩寿命が尽きると思わされるようになった。これを「造られた寿命」と名付ける。では、人間の寿命のように現存の住宅も含めた寿命はどれだけだろう。私の計算によれば40年以上ある。さらにある基準で都市住宅を3つに分類すると、1つのグループでは51年になる。この違いについて私の調査結果を使ってお話し、寿命は積み上げられることを考えてみたい。

BL・ALIA研究成果合同発表会

BL･ALIA研究成果合同発表会

BL･ALIA研究成果合同発表会

研究成果発表会　出席者

ALIA関係者	・・・・・43名
BL関係者	・・・・・・24名
発表者	・・・・・・・ 4名
講師	・・・・・・・ 1名
合計	・・・・・・ 72名

（交流会出席者　約40名）